

悪は幸福な夢を見る
か？

えみ(びるぷ)

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

運命の物語は終わりを迎えた。

その後は？

悪は滅ぼされた。

その悪はどうなった？

これは、巡る世界にて新たな運命を進む奇妙な冒険譚である。

(※尚、内容に乖離がみられる場合があります)

(※ほのぼの混部するだけです。)

(※アンチ・ハイトは念の為です。)

目次

第1話	n g
A t	—
T h e	
B e g i n n i	
第2話	
L o n e l i n e s s	
5	1

第1話 At The Beginning

Side ジョナサン

君との奇妙な縁は、また僕らを繋いでる。そう思ったんだ。

——12年前 ジョースター邸

僕はジョナサン・ジョースター

家族に弟がいて、ジョセフとジョニイ。

2歳下のジョセフはいつも元気がいっぱい（父さんにいつも怒られてるけど）で、5歳下のジョニイは動物が好きな優しい子。

……僕？ 僕は弟にはよく鈍臭いって言われるなあ…。

いつもの様に遊んでいるときを父さんが集めて言ったんだ。

「ジョナサン、ジョセフ、ジョニイ、よく聞きなさい。1週間後に新しい家族が来ることとなった」

「……新しい家族？」

まるで雷が落ちたようだったよ。

「父さーん！ それって!？」 「……再婚するの？」

「いや、友人の子供たちを引き取るところになったんだ」

……いけない。衝撃が強くてぼうっとしてた！

子供って僕たちぐらいなのかな？ どんな子だろう？ それよりも！

「ねえ、父さん！ その子って何て名前なの？」

「ああ、ブランドー家の3兄弟でね、ジョナサンと同年の双子のD I Oくとディオくん
んジョニイと同年のディオエゴくんと言うんだよ」

ディオ、D I Oと同じ発音な筈なのにディオだけ際立って聞こえたんだ！

「うわあ！ 似た名前した奴らだぜ！」

「それ言ったら僕とジョナ兄も似たようなもんじゃん」

「お、お前らは良いんだよ！」

…ディオ、ディオかあ！　なんだかすつごく気になる名前だ！　…なんでだろう？
来るのが楽しみだなあ、！

君を見たら今まで足りなかったものがわかったんだ！　まえの記憶でしつかりと！
だから、僕は言ったんだ。

「君が、ディオ・ブランドー？」

「そういう君は、ジヨナサン・ジョースター」

…ふふ、返す言葉も同じだ。

僕と君が出会った、新しい奇妙な運命も動き出していた。

父さんに言われたとき、胸がモヤモヤするのをジョセフで紛らわしてたけど、勘違いじゃあなかった！

、やけに胸騒ぎが、すると思っただ！

馬車から出てきたお前……！記憶が！はつきりとわかった！

あいつは！

「デイエゴ!!」

僕はまだ許さないぞ！2度目の世界だからって！

あいつは突然僕が呼んだことに驚いたように目を瞬く。マヌケ顔だ。

、なんか、前のデイエゴと違って雰囲気柔らかいような……？ いや、あのD i oが

そんな訳ないだろ！

「あ、ああ。僕はデイエゴ・ブランド、君はジョニイ・ジョースターだろ？よろしく」

……な、な！なんかふんわりと微笑んでるんだけど!!!あのデイエゴが!?!嘘だろ！絶対

中身に別人が入ってるだろ！

……中身……？もしかして、僕はあいつを見た時に思い出したけど、あいつは思い出し

てないのか？あの世界の記憶を！

第2話 Loneliness

No Side

記憶を思い出した2人のジョジョがそれぞれディオに話し続けるのは至極当然の結果だった。

だが！その空間についていけない者が2人居た！

方や、兄弟が馬車からの下車後に起きた状況により出口を塞がれ、降りるに降りれず困惑中の金髪美少年と、

先日まで知らなかった子供と仲良さげの兄弟を呆然と見つめるマフラーを着けた美少年だ……

……大変眼福であるゲフンゲフン。

そう！DIOとジョセフのことである！

ジョセフの傍に居た犬（もちろんダニーだ）が クウン と心配そうに鳴き、
 ぺろり と手を舐めた。

そのことで、やっとシヨックから回復出来たジョセフは、ダニーを一瞥し、D I Oを
 見て、ダニーと向き合った。

「……ダニー、あいつ等あんなに楽しそうにしてき、いつの間に知り合ったんだろな、
 ？ 俺だけハブリかよ……」

そう言つてダニーを抱きしめる。

実際は、主人公とラスボス前回の深い仲だった為、記憶が蘇ったのであるが、カーズと出会つてないジヨ
 セフには解らない話である。

そんな風にしんみりとしても容赦無くわがままを言うのが、例え記憶が無くても
 D I O の通常運転である！

真の帝王は目で殺す！ と言わんばかりの眼光の鋭さだ!!

（状況が状況だけにその格好は少し間抜けだが）

そんな目線は2人だけの空間x2この状況から目を逸らしたジョセフにのみ注がれる！

だが、意外ッ！実はジョセフも　ちこーっと　だけ、思ったことがあった！

そう！D I Oの顔を見ると無性にムカつくのである！

あの究極生命体との勝負に勝った男が、確かに1度殺されたのだから感情を思い出すのも無理もない。：無理もない。

そんな訳で、ジョセフは恨みがましく睨んでくるD I Oを無視して先に家に入るの
あった。

：ちなみに混沌とした状況はジョセフしか帰ってこないことに気づいた家主の
ジョージが来るまで続いた。

「このD I Oがアーツ」

チャンチャン♪

「ジヨナサン、ジヨニイ、デイオくん達は遠い所から来たばかりなんだから、ゆつくりさ

せてあげるんだ」

ジョージは やれやれ と言わんばかりにゆっくり首を振る。

そして、デイオたちに向き直り、

「では君たちの部屋に案内しよう、ジョージたち、荷物を代わりに持つてあげなさい」と仕切り直したのであった。

ここで、前回のおさらいをしよう。

1回目のデイオはジョージが荷物を持つことを強烈に拒否した。

が、ここはn巡目 悪 優遇 時空！

ツンデレはあるが、ゲロ以下では無かった。